

房総国際芸術祭 Boso Triennale

01.
八幡宿駅周辺
Around Yawatajuku Station



02.
五井駅周辺・梨ノ木公園
Around Goi Station・Nashinoki Park



03.
市原歴史博物館
Ichihara History Museum



04.
上総牛久駅周辺
Around Kazusa-Ushiku Station



千田泰広 (Analemma)

05.
内田未来楽校
Uchida Mirai Gakko



【広域】小湊鉄道各駅舎ほか
[Wide Area] Kominato Railway Stations & Other Site



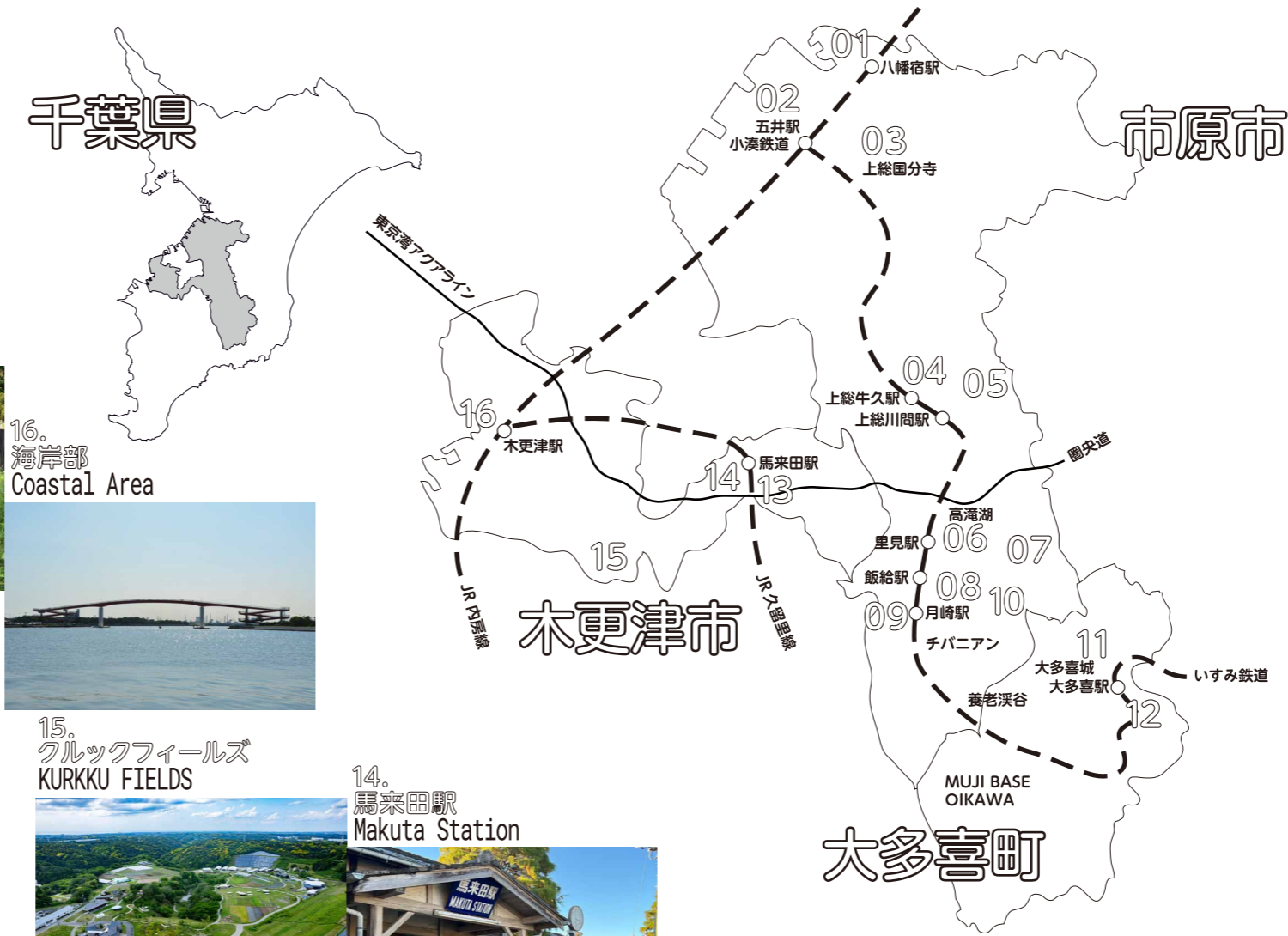
アートの舞台 Art Sites



上総牛久駅 / 藤本壮介 (黒山トイレ)



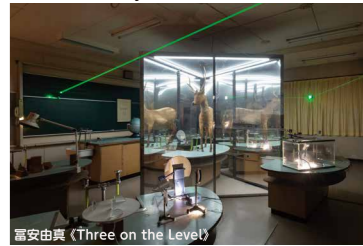
飯給駅 / 藤本壮介 (Toilet in Nature)



06.
市原湖畔美術館
Ichihara Lakeside Museum



07.
旧平三小学校
Former Heisan
Elementary School



富安由真 (Three on the Level)

08.
旧里見小学校
Former Satomi Elementary School



豊福亮 (里見プラントミュージアム)

09.
月崎・田淵
Tsukizaki・Tabuchi



木村崇人 (森ラジオステーション × 森遊会)

10.
月出工舎
ARS TSUKIDE



岡田杏里 (月が生まれたとき)

11.
大多喜町役場
Otaki Town Hall



14.
馬来田駅
Makuta Station



13.
富来田地域交流センター
Fukuta Community Center



12.
城下町通り
Castle Town Street



15.
クルックフィールズ
KURKKU FIELDS



16.
海岸部
Coastal Area

房総国際芸術祭 アート×ミックス2027

千葉県市原市では、地域課題の解決や交流人口拡大を目的に、2014年から芸術祭「いちほらアート×ミックス」を開催し、地域の魅力の再発見と活用に取り組んできました。これを継承し、2024年は内房総5市(市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市)にて官民協働で「千葉県誕生150周年記念事業 百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス」を展開。2027年はそれをさらに発展させ、千葉県、市原市、木更津市、大多喜町が連携し「房総国際芸術祭 アート×ミックス2027」を開催します。

テーマ・コンセプト

「五感全開、旅する房総 -みんなの美術工場-」

房総半島まるごとの千葉県は、鎌倉殿が勢力を拡大し、のちに各地で城下町が形成された関東の歴史的拠点であり、古くは国分寺から遡る古墳文化の華やかな地であり、2500万年前にはユーラシア大陸から離れていく日本列島の牽引の大地でした。近代以降、この豊かさを育む里山や歴史的な風景とともに、日本有数の工業地帯として、また首都圏の大切な住宅地として発展し、今や日本列島の縮図ともいえる地域として存在感をもってきました。

本芸術祭では、2市1町の各地にアート作品と音楽・ライブパフォーマンスを展開し、来場者は、半島を縦断する鉄道、車、自転車、徒歩などで地域を旅します。太平洋を臨むフロンティアの地に、世界各地から作家が集い、世界へと開かれた国際的な芸術祭の拠点として歩み始めます。ここでは「みんなの美術工場」の構想のもと、ものづくりに注目し、作家の滞在制作やシンポジウム、ワークショップを開催します。さらに、木更津のクルックフィールズを立ち上げた小林武史が、この地域の特徴を生かした音楽・ライブパフォーマンスを手掛けます。また各エリアの施設と連携し、地産地消メニューや新しい食体験を考案。芸術祭を訪れる人々と地域との交流も創出します。

多様な文化を育んできた房総の地で、美術・文化を題材とした地域づくりを始めるべく、千葉県・市原市・木更津市・大多喜町が「房総国際芸術祭 アート×ミックス2027」を開催します。地域の産業・文化・美術・音楽を、海外から学びつつも、地域の力のなかで育てていこうとするものです。